

令和 3 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 人文学部
氏 名 吉丸 雄哉

活動テーマ	忍者活劇体験のプログラム開発による地域振興
実施期間	令和 3年 4月 1日 ~ 令和 4年 3月 31日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>○伊賀之忍砦祭～弍～ (5月3日・4日) における伊賀忍者活劇体験 (忍者 LARP) の計画</p> <p>2021年度の春はコロナの感染状況が思わしくなく、伊賀市役所が主催する恒例の伊賀上野 NINJA フェスタが開催されなかった。そのかわり伊賀流忍者サークル「伊賀之忍砦」が主催する「伊賀之忍砦祭～弍～」(5月2日3日4日)を開催することになった。「全国各地の忍者が伊賀に終結!」「忍者が作る忍者イベント」をコンセプトにしており、このうち忍者 LARP はイベント全体3日間のうち2日(5月3日・4日)のみ実施することになった。</p> <p>「伊賀之忍砦祭」の会場である上野市駅前多目的広場に受付を設置し、受付を済ませたお客はハイトピア伊賀3階に上がり、そこで着替えてもらうことになっていた。上野市駅前多目的広場のステージを利用して、忍者 LARP のキャストである忍び衆華武姫に宣伝を兼ねたショーをやってもらい、「伊賀之忍砦祭」に来た当日客にアピールする予定だった。</p> <p>実施は不透明だったがテストプレイは行わねばならず、令和3年4月18日(日)にハイトピア伊賀3階のコミュニティ広場を利用して行った。</p> <p>広報はチラシを作って4月より広報活動を開始した。また、公式告知用 Twitter アカウント『@IgaNinjaLarp』を開設し、4月7日より告知を開始した。4月21日に中止決定となったが、この時点で3分の1が予約で埋まっていただけにたいへん残念であった。</p> <p>○10月9日・10日「伊賀上野灯りと忍びの城下町」における伊賀忍者活劇体験 (忍者 LARP) の計画</p> <p>5月の伊賀之忍砦祭が中止になったあと、10月9日10日に開催される「伊賀上野灯りと忍びの城下町」で実施してもらえないかという依頼が伊賀市から7月下旬にあった。実施計画を立て、伊賀市と開催にあたって調整を行った。崇広堂の庭と離れを利用すること、従来は日中3枠だけの開催だが「灯りと忍びの城下町」だけあって夜間の開催1枠を加えることを計画した。</p> <p>しかし、8月には新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい8月下旬には開催の見通しがかなり厳しくなり、結局、9月上旬にはイベントと</p>

しての開催は中止となりライトアップのみが行われた。

○2022年2月19日20日「IGA NINJA WEEK」における伊賀忍者活劇体験（忍者 LARP）の計画

2022年2月19日～23日に「IGA NINJA WEEK」が開催されることが10月上旬に決定し、19日（土）20日（日）の二日間に忍者 LARP を行うことにした。

今回は崇広堂の本堂を伊賀市に確保していただき、テストプレイも2月6日（日）に崇広堂で行うことが確定した。シナリオは5月に計画したとおりの天正伊賀の乱テーマである。

「灯りと忍びの城下町」の中止が決定した時点で、レガシィとして忍者 LARP のルールとシナリオがセットになった冊子を作成することにしたため、実施のための予算が少なくなっていた。そのため、伊賀市役所を介して一般社団法人伊賀上野観光協会（伊賀上野観光協会DMO）と「教育観光3.0」の業務委託を受けることで実施の予算を確保し、準備を行った。残念ながらオミクロン株の流行により2月12日に中止が決定となった。

○伊賀忍者活劇体験（忍者 LARP）ルールブックについて

今年度はコロナ禍のためイベントを十分に実施できなかった。また実施して終了ではせつかくの成果が根づかないので、ルールとシナリオ3本を収録した『伊賀忍者活劇体験ルールブック』を「三重大学国際忍者センター監修・グループ SNE 友野詳作」として B5 版 36 頁の冊子を作成した。2月上旬には300部の印刷と製本を済ませ、2月の「IGA NINJA WEEK」で頒布の準備まで済ませていた。今回頒布できなかった分は、今後忍者 LARP を継続する団体（忍び衆華武姫）が実施の際に頒布する予定である。

（2）地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）

地元の忍者パフォーマンス集団「忍び衆 華武姫 ～KABUKI～」とは前年度より連携しており、本番の実施はできなかったものの、テストプレイを通じて、実施のノウハウを伝授することができた。来年度以降は「忍び衆 華武姫 ～KABUKI～」が主催となって伊賀市で忍者 LARP を実施する予定である。これによって、地域を訪れる観光客にただ忍者衣裳を着るだけではない、一ランク上の忍者体験と学習を観光客に用意できるようになったといえる。

（3）共同実施者との連携状況

上記のとおり、共同実施者である伊賀市には活動の場所の提供で大いに助けられた。伊賀流忍者サークル「伊賀之忍砦」が主催する「伊賀之忍砦祭～弐～」でも受付用の机やテントを借用する予定だった。10月9日・10日「伊賀上野灯りと忍びの城下町」における伊賀忍者活劇体験（忍者 LARP）と2022年2月19日20日「IGA NINJA WEEK」における伊賀忍者活劇体験（忍者 LARP）では史跡旧崇広堂をお借りする予定であった。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

『伊賀忍者活劇体験ルールブック』におけるシナリオ作成と「シナリオ作成の背景になった史実」の章には、三重大学国際忍者研究センターが行ってきた忍者研究の知見が生かされている。

また、本活動に関して京都大学のビョーン＝オーレ・カム先生が参与観察を行っており、論集『After/With コロナの「国際日本研究」』（国際日本文化研究センター、2022.3）所収の「日本におけるライブ・アクション・ロールプレイ (LARP) および教育ロールプレイングの研究方法論における問題点」で、「数ある歴史系 LARP イベントのひとつ、伊賀の忍者 LARP も同様に参加しやすい」（222 頁）と紹介されたほか、Kamm, Bjorn-Ole 2022. “*Reenacting Japan’s Past That Never Was: The Ninja in Tourism and Larp.*” In *Reenactment Case Studies: Global Perspectives on Experiential History*, edited by Vanessa Agnew, Juliane Tomann, and Sabine Stach. New York: Routledge. に LARP を通じて伊賀の観光に寄与する本活動が詳細に報告されている。

(5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）

コロナ禍のため、イベント自体の開催はできなかった。

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

忍者 LARP については三重大学地域貢献事業支援助成をうけたこの3年間と、試験的实施を行った半年と試行錯誤を重ねてきた。

本件以外に地域貢献活動を実施したことがあるが、すでに地域で行われていた活動（落語会の実施など）を推進する形で活動を行っており、本件のようにまったく新しい取り組みを地域に根づかせる活動は初めてであった。忍者装束を得やすいことと古くからの町並みが残っているという伊賀の特性を生かし、西洋的ファンタジー世界を主な題材にしていた LARP において忍者をテーマとする忍者 LARP を開発できたのは大きなことである。洗練されたルールの洗練に、シナリオの蓄積もできた。今後はグループ SNE がシナリオを供給し、「忍び衆 華武姫 ～KABUKI～」が引き継いで実施することも決まった。忍者を題材にした「忍者活劇体験」（忍者 LARP）のプログラムを開発して、新たな観光の柱とするという本事業の目的は果たせたと思われる。今後は支援する側にまわるが、引き継ぎ地域振興に貢献していきたい。

Iga Ninja Live Action Role Play

伊賀忍者活劇体験

5/3(月・祝)・4(火・祝)

一日三回 忍務 11:00/13:00/15:00

忍者の聖地伊賀市に
忍者活劇体験
(忍者LARP)登場!

LARP (Live Action Role Play) は、欧米で1990年代から盛んになっている新スタイルアクション。あなたが物語の主人公になり、会話や戦いを通じてストーリーを体験します。今回は忍者の聖地伊賀で、「忍者」となって時代劇を楽しむLARPを開催します。大人から子どもまでどなたでも忍者となって活劇体験が可能です。2日限りの開催なのでお見逃しなく!

高校生以上 2,000円(税込)+忍者衣装代1,100円(税込)
中学生・小学生 1,000円(税込)+忍者衣装代1,100円(税込)

受付:上野市駅前広場 伊賀之忍習合会場
忍者LARP受付テント

主催 三重大学国際忍者研究センター (三重大学地域貢献事業活動)、グループSNE、忍び衆華武壇、体験型LARP普及団体CLOSS

お問い合わせ・申込 三重大学国際忍者研究センター 電話 0595-51-7154 E-mail ninja@rscn.mie-u.ac.jp

イベントは中止

Live Action Role Playing Game **体活**

伊賀忍者活劇体験
忍者LARPルールブック

監修: 三重大学国際忍者研究センター
著: 友野祥/グループSNE
協力: 体験型LARP普及団体CLOSS

ルールブックは別途頒布